

女の しんぶん

2018年
6月25日

来年度から中学校でも始まる「道徳の教科化」。今夏、教科書の採択が各地で行なわれる。文科省のめざす22の徳目に「自由、平等、人権尊重」は見当たらず、どの教科書にも問題はあがるが、特に「日本教科書」「教育出版」は要注意だ。露骨な女性差別や排外主義、人権侵害にあたる教材が多く、安倍総理の演説を載せるなど、権力におもねった内容になっている。採択を前に教科書展示会が各地で開催されている今、相可文代さんに問題点を挙げてもらった。

日本会議系の教科書が2社に

現在各地で採択にかけられている中学校道徳教科書は8社あります。そのうち、「日本教科書」と「教育出版」は日本会議系が作成した教科書です。

「日本教科書」は日本教育再生機構理事長の八木秀次氏が育鵬社から財政上の理由で発行を拒否されたため、自ら代表となつて立ち上げた会社です。その後代表は晋遊舎代表の武田義輝氏が兼ね、「日本教科書」は晋遊舎ビルに移転し、両社は事実上一体の会社です。晋遊舎は『マンガ嫌韓流』などのヘイトスピーチ本や児童ポルノ本の出版で知られており、道徳教育を語る資格はありません。また、「教育出版」は小学校同様、日本会議のブレンといわれる目塚茂樹氏が作成しています。

人権侵害教材が満載「日本教科書」 自国中心主義の「教育出版」

「日本教科書」には、人権侵害教材がたくさんあります。罪を犯せば中学生でも厳罰を受けると脅す「14歳の責任」、長時間労働を事実上容認し、友情の話にすりかえる*「雨の日のレストラン」、結婚した女性はあくまでも家事を優先すべきだと教える**「ライフ・ロール」などです。

2018年、中学校道徳教科書採択 「愛国兵士」をつくる道徳教科書を通すな

相可 文代 (子どもたちに渡すな! あぶない教科書 大阪の会)

また、安倍首相のホノルル演説を載せたり、伊勢神宮を「心のふるさと」として教えるなど、安倍政権への迎合や神道の美化が目立ちます。

「教育出版」は小学校同様偉人伝が多く、各学年の巻末に47都道府県の偉人が掲載されていますが、多くは戦国武将と勤王の志士です。戦国武将は下剋上でのし上がり略奪と殺戮をくりかえし、勤王の志士は今風にいえばテロリストたちで、とても子どもたちの道徳的なロールモデルにできる人物ではありません。

また、在日外国人の子どもへの配慮に欠ける「外国人から見ただ日本人」、福島から避難している子どもへの配慮に欠ける「それでも僕は桃を食う」など、さまざまな立場の子どもに二元的な価値観を押しつける排外主義的な教材が目立ちます。子どもに数値評価させる教科書も

文科省は、評価は数値でなく文章で行なうとしています。しかし、中学校道徳教科書は8社のうち5社が子どもに数値で自己評価させています。

なかでも「日本教科書」は、「教育出版」「廣済堂あかつき」の3社は、22の徳目ごとに子どもに数値で自己評価させ、徳目を物差しにしているのを考えるように仕向けています。自己評価をどのようにさせているかも教科書を選ぶ観点のひとつです。

*雨の日のレストラン 徳目⑧友情
友人たちと夕食の約束をしたものの、仕事が終わらず欠席しようとしたが、友人たちは待っていてくれた。待っている間、友人たちはレストランのテーブルで各自仕事をしていた。忙しいのは自分だけではないと気がついた若い会社員は楽しく食事をした後、また会社に戻って仕事に集中しようとするという話。
長時間労働への批判的視点は全くない。「働き方改革」といつつ、無制限の労働を強いる「裁量労働制」を導入しようとしている安倍政権政権に迎合した教材。たとえ仕事もしんどくても、長時間勤務でも、わかりあえる友人がいればがんばれると友情の話にすり替えている。

**ライフ・ロール 徳目⑪社会参画
共働きの母親の忙しい日常。祖母の介護を夫婦、子どもたちが押しつけ合うが、結局母親が引き受け、管理職への登用をあきらめるという話。母親が「私には他にも役割がありそうです」と、家庭を優先し上司に管理職の話を断ることが肯定的に描かれている。父親が仕事を優先させることへの批判はなく、介護を社会的に解決するという視点もない。
「家事や介護は女性の仕事」という男女の固定的な役割分業を当然であるかのように教えている。女性の社会参画は「家庭優先」が前提という、女性差別を子どもたちに刷り込む教材。

参考：子どもたちに渡すな! あぶない教科書 大阪の会
<https://blog.goo.ne.jp/text2018>

道徳教育がはじめを助長?

4月に放送されたNHKの「クロースアップ現代+」では、小学校の道徳授業で何が起きているかが紹介されています。「お母さんの請求書」という教材は「家族愛・母の愛は無償」を学ぶことが目的とされているため、「お母さん」だつて家事をしてお金をもらいたいだろう」と書いた子どもが周りから浮いてしまい泣き出すという場面がありました。決められた徳目に導かなければならないために、その結論からずれる子どもが追いつめられ、孤立化してしまうのです。

展示会、採択会議で意思表示を

「道徳の教科化」は改憲をもくろむ安倍政権・日本会議が「戦争をする国」の将来の「愛国兵士」を育成するために行なわれました。「考え議論する道徳」がうたわれていますが、予め正解ありきでどの教科書も22の徳目の習得へと導くように作成されています。それでも、できるだけ「人権・平和・共生」の視点を大切にしようとしている教科書もあります。

教科書展示会に行き、実際に教科書を読んで、採択してはならない教科書、採択してほしい教科書をはっきり書いてください。また採択会議を傍聴してください。市民の厳しいまなざしがよりましな教科書の採択を可能にします。